

# まるごとお魚ワールド

海洋大図書館には、お魚の本がたくさんあります。今回は、“まるごとお魚ワールド”ということで、お魚について書かれた本を集めてみました。エッセイ・随筆でお魚ワールドにひたるもよし、雑学を読んでお魚博学博士になるもよし、どうぞお手にとってご覧ください。

以下の本はすべて図書館で所蔵しています。展示期間終了後の配置場所は、[請求記号](#)の書いてある書棚をご覧ください。

## 《“魚博士”とさかなクンの本》

- 『**魚の博物事典**』 末広恭雄 [著]. 講談社, 1989. (講談社学術文庫 ; [883]) 487.5/Su16  
日本人に特に親しい魚134種について、その生態から釣魚法まであらゆる情報をまとめた末広魚談義の集大成。
- 『**随筆で楽しむ日本の魚事典**』 末広恭雄著 ; 木村清志監修・追補 ; 海水魚 1 - 海水魚 4. 錦秋社, 2006. (末広恭雄選集 / 末広恭雄著 ; 1-4) **オススメ!** 487.5/Su16/1  
「魚博士」として親しまれた末広恭雄の全仕事より、名作・傑作をあますところなく収録。魚種ごとにわかりやすい事典形式で、現代の研究者による最新事情も充実！ 487.5/Su16/2  
487.5/Su16/3  
487.5/Su16/4
- 『**魚のうた**』 末広恭雄著. 音楽之友社, 1975 760.4/Su16  
もしも魚博士ではなかったら、作曲家になっていたかも？魚博士の音楽随想に、魚に関する民謡や童謡の科学的解説を行う、ユニークな本。
- 『**おしえて!さかなクン**』 さかなクン文・絵 ; 中坊徹次監修・コラム ; 1. エンターブレイン, 2009. (角川つばさ文庫 ; Dさ1-1). 487.5/Sa34  
ご存知、東京海洋大学客員准教授のさかなクンによる魚学入門書。
- 『**おさかな新発見!おしえてさかなクン**』 さかなクン著. PHP研究所, 2004 481.7/Sa34  
魚にまつわるさまざまなエピソードをさかなクン自ら描いた絵とともに紹介するのイラスト&エッセイ集。

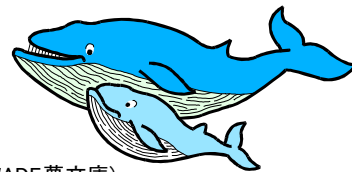
## 《魚のふしぎ》



- 『**海の生き物100不思議**』 東京大学海洋研究所編. 東京書籍, 2003 468.8/To46  
海に生きる生物の生活様式・行動・構造・生態・生理などに焦点を当て、海に対する理解を深めることを目的とする一冊。
- 『**魚ふしぎ不思議**』 木村重著. 刊行堂出版社, 1982 487.5/Ki39  
不思議な魚の習性、外来魚の話、魚の伝承・伝奇など計31話を集めた本。
- 『**深海魚摩訶ふしぎ図鑑**』 北村雄一絵と文. 保育社, 2008. (「生きもの摩訶ふしぎ図鑑」シリーズ) **オススメ!** 487.5/Ki68  
“[ピワアンコウ]メスにくっついてる妙なもの……じつは彼氏です” 深海魚のふしぎがわかる本。
- 『**海に生きるものたちの掟：食うか食われるか、命を受け継ぐ食物連鎖の秘密**』 窪寺恒己編著. 468.8/Ku11  
ソフトバンククリエイティブ, 2009. (サイエンス・アイ新書 ; SIS-127).  
「食うか食われるか」。巨大なクジラ類から極小のプランクトンまで多種多様な海生動物たちの生き様をトピック中心にまとめてあります。写真と図解でわかりやすい！
- 『**トビウオは何メートル飛べるか**』 加藤憲司著. リベルタ出版, 2006 487.5/Ka86  
オスは不要という恐ろしい(?)魚、性転換する魚、淡水でも海水でも気にしない魚、毒を持つ魚…魚にまつわるたくさんの疑問に答える本。
- 『**カニは横に歩くとは限らない：甲らに包まれた不思議な仲間たち**』 武田正倫著. PHP研究所, 1992 485.3/Ta59  
カニのはさみは何を切る?カニみその正体は?カニの形態、繁殖、味覚…。本物の「カニ通」になれる本。
- 『**海のふしぎ「カルタ」読本**』 高田浩二著 ; 萩原洋子絵. 東海大学出版会, 2007 468.8/Ta28  
「あ」からはじまり「ん」で終わる、朝日新聞西武本社発刊の新聞紙面に週1回連載した「海のふしぎ「カルタ」をまとめたもの。イラストもかわいい。
- 『**チリメンモンスターをさがせ!**』 きしわだ自然資料館, きしわだ自然友の会, 日下部敬之監修. 偕成社, 2009 481.7/Ki58  
チリメンジャコの中にまじって見つかる小さな生き物、チリメンモンスター。チリメンってこんなにあるんですね。

## 《雑学大集合!》

- 『**魚さかなサカナ面白雑学事典**』 毎日新聞社編. 毎日新聞社, 1984 487.5/Ma31  
珍しい魚の語源、かわった魚の生態、身近な魚の調理法まで、いろいろな角度からとりあげた話が盛りだくさん。
- 『**魚のふしぎ事典**』 佐藤魚水著. 中経出版, 2009. (中経の文庫 ; さ-10-1) **オススメ!** 487.5/Sa85  
知っているようで知らない「魚のふしぎ」をなぞなぞ形式でわかりやすく解説。文庫なので電車通学の方にも最適！
- 『**おもしろくてためになる魚の雑学事典**』 富田京一, 荒俣幸男, さとう俊著. 日本実業出版社, 2004 487.5/To58  
マグロは実は人間の仲間?ミルクで子育てする熱帯魚とは?魚の不思議な生態や意外に高い知能、魚との接し方・遊び方から意外なエピソードまでを満載。
- 『**魚貝もの知り事典**』 平凡社編. 平凡社, 2003. 487.5/H51  
鯨から海鼠まで日本の水産物のエピソードを集めた事典。図解たっぷりですらすら読めます。
- 『**365日魚と貝のなぜなぜ事典**』 久保田久喜著. 啓明書房, 1982 487.5/Ku14  
「ドジョウのヒゲは何本か?」「アゴにヒゲがはえた魚は?」魚と貝の「なぜ?」に答える面白百科。
- 『**知ってビックリ!お魚の大疑問**』 謎解きゼミナール編. 河出書房新社, 2009. (KAWADE夢文庫) 664.6/N59  
深海魚はなぜつぶれない?カニ味噌ってカニの脳みそ?…お魚大好き日本人も意外に知らない魚の謎がスイスイわかる、おいしいネタ本。
- 『**頭がよくなるおさかな雑学大事典**』 日本おさかな雑学研究会[編]. 幻冬舎, 2002. (幻冬舎文庫) 664.6/N77  
不思議な生態から、話題の健康パワーまで、知れば知るほどいいことづくめのおさかな雑学集! 「アサリは深川、シャコは品川」、「アラ探しのアラとは」などの171話を収録。



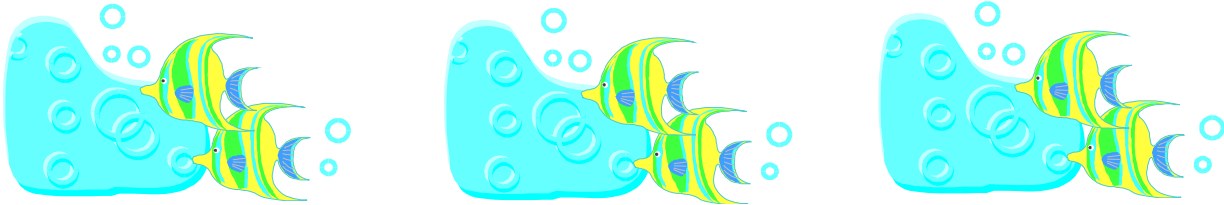
## 《魚ってすごい！》

- 『**すごいしんかいぎょ!**』 深海生物探検隊著. 壽屋, 2009. 487.5/Sh64  
エウリセネス・グリルス、ピンポンツリースポンジ、ラフカ、ラシオグナサスアンフィランファス…。これ全部深海魚です。
- 『**魚の地震予知**』 小田淳著. 叢文社, 2007. 453.3/O17  
大地震襲来前の魚たちの異常行動を探る魚たちの異常行動から大地震襲来を事前に予知すべく、歴史をさかのぼり、その関係を調査。魚ってすごいんですね。
- 『**科学がつきとめたこの新事実**』 鈴木平光著. ベストセラーズ, 1991. (ベストセラーシリーズ「ワニの本」. 魚を食べると頭が良くなる; [正]). 498.5/Su96  
この本を読むと、もう魚しか食べられなくなってしまう!?かも。
- 『**新世界透明標本**』 富田伊織作. 小学館, 2009. **オススメ!** 480.7/To58  
骨が染められ筋肉が透明になった魚類や甲殻類などの標本たちが、清涼感、浮遊感とともにアナタに迫る写真集。
- 『**魚類**』 荒俣宏著. 平凡社, 1989. (世界大博物図鑑 / 荒俣宏著; 第2巻) **オススメ!** 460.3/A64/2R  
ただの図鑑ではなく、博学者荒俣氏による博物図鑑。それぞれの魚の各項目には、名前の由来、博物誌が掲載されています。

## 《随筆、エッセイで読む魚》

- 『**魚のつぶやき**』 高田浩二著. 東海大学出版会, 2006. 487.5/Ta28  
マダイからリュウグウノツカイまで150種の魚介を魚介自身が紹介するおもしろ生物学。マダイ「「国魚」に推してくれないか」。サケ「カーナビよりも高性能」など。
- 『**魚名源**』 江副水城著. パレード, 2009. (Parade books). 487.5/E98  
著者独自の考察に基づく語源説。真っ向から鵜呑みにせず、ふうーん、と読み進めるのがコソ
- 『**海中奇面組：中村征夫フォトエッセイ**』 中村征夫著. KKベストセラーズ, 2006. (ベスト新書; 122). 481.7/N37  
「いつまでご一緒? おふたりさん」、「あごひげ生やしたお人好し」など、それぞれの生き物につけられたキャッチフレーズがとて面白いです。
- 『**魚のないしょ話**』 佐藤魚水著. 新人物往来社, 1998. 487.5/Sa85  
アコウダイ、アマダイ、タテウオなどの釣り魚を中心に、魚の食・住・性を描いた学問しながら楽しめる面白エッセイ集。60の魚が登場し、魚の雑学事典としても使える。
- 『**魚々食紀(ぎょぎょしょつき): 古来、日本人は魚をどう食べてきたか**』 川那部浩哉著. 平凡社, 2000. (平凡社新書; 041) 383/Ka96  
マス、ナマス、ハモ、アユ等々、魚の生態学研究45年の先生の食意地と古今の文献漫遊から生まれた絶品の魚食文化エッセイ。
- 『**水族譚：動物童話集**』 天沢退二郎著. 大和書房, 1978. 480.4/A43  
カニや蛙、魚や水鳥や子猫…。水に棲み水辺に生きる小動物たちの生と死と夢の小世界を描く。
- 『**奇妙でセクシーな海の生きものたち**』 ユージン・カプラン著; 土屋晶子訳. インターシフト, 2007. **オススメ!** 481.7/Ka61  
出産するオス・数珠つなぎのSEX・メスの体内で養われるジゴロ・肛門のなかで暮らす魚…博覧強記の海洋生物学者による大人のお伽噺のような、海の生きものたちの真実。
- 『**漁師の食卓**』 魚見吉晴著. ポプラ社, 2003. 596.3/U79  
漁師生活40年にして料理人でもある著者が、旬の魚のおいしさを語り、その選び方や味の楽しみ方を指南するエッセイ。
- 『**四季のさかな話題事典**』 金田楨之著. 東京堂出版, 2009. 664.6/Ka52  
日本近海で四季折々に獲れるさかな47種をとり上げ、その語源、生態、漁法、料理などを紹介する“おさかな事典”。
- 『**魚眼漫遊大雑記**』 野田知佑著. 講談社, 1985. 290.9/N92  
ヨーロッパ、アフリカから南の島まで、カヌーイスト野田知佑が釣りざお片手に世界を漫遊おもしろうてやがておかしい旅の大雑記帳。
- 『**知らなかった江戸のくらし：絵が語る**』 本田豊著; 庶民の巻. 遊子館, 2008. (遊子館歴史選書; 11). 210.5/H84  
『日本山海名物図絵』など「江戸の絵」から江戸の農山漁民をのくらしを読み解く。
- 『**湖魚と近江のくらし**』 滋賀の食事文化研究会編. サンライズ出版, 2003. (淡海文庫; 28). 383.8/Sh27  
琵琶湖と周辺で獲れるアユ、フナ、モロコ、シジミなど魚貝類ごとに、さまざまな調理法を紹介し、豊かな地域食文化の復権をめざす書。
- 『**アフリカによりり旅**』 青山潤著. 講談社, 2007. **オススメ!** 294.8/A58  
ウナギ全18種類中、唯一まだ採集されていない種「ラビアータ」を捕獲するため、アフリカで奮闘する東大の研究者の爆笑アフリカ冒険記。
- 『**似魚図鑑**』 晋遊舎, 2008. 664.6/N89  
「代用魚(開発魚)たちの加工前の姿を、代用元の魚と並べて比較検討する、新しいタイプの魚類図鑑。ネタ本にどうぞ。
- 『**釣り師の休日**』 エドワード・グレイ [ほか] 著; 飯田操編訳. 角川書店, 1997. 787.1/G84  
釣り師の心は古今洋の東西を問わず同じである。1814年のワーズワスの『逍遙』から1995年のパラムの『フィッシング・ウイドウの手引』まで、英国釣り文学の真髄。
- 『**大博物学時代：進化と超進化の夢**』 荒俣宏著. 工作舎, 1982. 460.2/A64  
幾多の「仮説と幻想」のドラマを生み、ライフサイエンスの源流となった18~19世紀の博物学が現代に蘇る。ピュフォン『博物誌』、キュビエ『動物界』などの貴重図版も多数収録。
- 『**配流地で遭った生物**』 李泰浚著; 金容権訳. 日本評論社, 2007. (「茲山魚譜」を訪ねて; 第2巻) 468.8/R32  
朝鮮王朝後期に生きた実学者にして博物学者・丁若鏞。洪沢敬三が激賞したその代表作『茲山魚譜』の足跡を、200年後の今日、若き学徒が配流地・黒山島に追う。第2巻はサメを中心に取り上げている。
- 『**奇怪動物百科**』 ジョン・アシュトン [著]; 高橋宣勝訳. 博品社, 1992. (Documenta historiae naturalium) 460.4/D81  
アリストテレス、プリニウス、ゲスナー、アルドロヴァンディ、トプセル、マンデヴィル、マルコ・ポーロ、オラウス・マグヌスらの興味深い記述をまとめた、アシュトンの意匠による奇譚集成。図版120点収録。

- 『**錦絵が語る江戸の食**』 松下幸子著. 遊子館, 2009 オススメ! 383.8/Ma88  
 食と、歌舞伎と、錦絵と。浮世絵師が描いた美しい彩色の錦絵から江戸の食生活と庶民の暮らし方をにする。潮干狩、魚市場、海苔・白魚、初鰹、刺身、すし、蒲焼など・・・江戸時代でも海の幸をいっぱい味わっていたことがわかります。
- 『**西洋博物学者列伝：アリストテレスからダーウィンまで**』 ロバート・ハクスリー編著；植松靖夫訳. 悠書館, 460.2/H98  
 身体全体で自然を感じ、手づかみで“知”を蓄えていった偉大な博物学者たちの営みを、流麗な文章と、息を呑むほどに美しい博物画とともに紹介。
- 『**にっぽん・海風魚旅**』 椎名誠著. [1]: 怪し火さすらい編. 講談社, 2000. 915.6/Sh32/1  
 あてずっぽうの旅の妙味とシアワセ。全国のとれたてのうまい魚が色っぽく登場。ぐるりと歩いた原色波風うま酒列島。フォトエッセイ第1弾。
- 『**にっぽん・海風魚旅**』 椎名誠著. 2: くじら雲追跡編. 講談社, 2000. 915.6/Sh32/2  
 全国の海を見に行く、フォトエッセイ第2弾宮古島ではニシキヘビの開きが、和歌山はクジラが、山陰ではババアという名の魚が待っていた。日本の海べりをめぐり、いい人、うまいものとお会い旅はまだ続く。フォトエッセイ第2弾。
- 『**にっぽん・海風魚旅**』 椎名誠著. 3: 小魚びゅんびゅん荒波編. 講談社, 2000. 915.6/Sh32/3  
 いい人、うまいものとお会いするため、今度は千葉外房の干物海道を皮切りに、鹿児島から北海道の室蘭、小樽。そして駿河、浜名湖と、最も足しげく通っている八丈島へ。港みなどに冷たいビール。日本の海べりをゆく旅はさらに続く。フォトエッセイ第3弾。
- 『**特集「どっぷり、東京湾」：江戸前を探して**』 都市出版, 2008. (東京人；no. 257) 291.3/To46  
 東京湾のむかしからいまで、どっぷり東京湾。昔は品川沖にも鯨がきたんですね。
- 『**露伴釣談**』 幸田露伴著；開高健編|ロハン チョウダン. アテネ書房, 1978. (復刻釣の名著；第1期第7冊) オススメ! 918.6/Ko95  
 『復刻 釣の名著シリーズ』、初回配本限定700冊のうちの1冊。旧かなづかいで少し読みにくいですが、おもむきがあります。



☆このリストにあげたのは魚についての本のごく一部です。展示して目をひきやすいビジュアルなものを中心に選びました。  
 本の背表紙に赤の禁帯出シールが貼ってあり、請求記号の後ろに「R」のついているもの(参考図書コーナー)のものは借りられません。  
 館内でご覧ください。

☆本学図書館の書棚にはここにリストアップした本の数と比べ物にならないほどの、海や魚に関する本が並んでいます。  
 どうぞそちらもごらんください。

※コメントは出版情報・目次・あとがき等を参考に、東京海洋大学附属図書館情報サービス係が作成。(2011/08/25)